



電鉄駅めぐり

旧県庁前駅(後の白山前駅)

昭和十一年、電車開通の三年後につくられた木造三階建、耐火タイル張りのモダン建築でした。戦前から戦中、戦後にかけて、新潟市民は元より、中ノ口川沿いの電鉄沿線の住民にとって、唯一の交通機関であった電車の県都乗入れの終着駅として、何時も大勢の乗降で賑わっていました。

戦後、テレビや娯楽施設のまだほとんどなかった頃、新潟の古町通りや、白山公園、映画館は、新潟近郷町村の若者にとって、休日には遊びに行きたいあこがれの地でした。

県庁前駅ができる、その年から十八年頃まで、県庁前―東関屋間を、チンチン電車、あるいは、豆電車ともいわれた床の低い小型電車が走りました。この区

間の停留所は、「監督署小路」、「白山浦一丁目」、「白山浦二丁目」、「中学前」、「硫酸会社前」の五か所でした。それは、バスと同じく路上から乗れる電車で、従来、燕―白根―大野方面からの乗客で、白山浦等に用のある人は、東関屋で一旦電車を降りると、別に設けられた引込線の路上から小型電車に乗りました。そして、県庁前―東関屋間の五か所の停留所で降りられるようになっていました。新潟交通の話によれば、この電車は、昭和十八年に廃止されました。その後、川崎電鉄に買われていき、翌十九年米軍機の空襲を受けて焼失したということでした。

執筆 宮田 栄門

このたび、広報くろさきで連載している「黒崎町の今昔」を執筆されている宮田栄門さんが、平成十一年四月四日、惜しまれつつ廃線となった新潟交通電車線と電車線沿線の歴史や文化についてまとめられた「電鉄の今昔」を発刊されました。今号では、以前広報に連載していた「電鉄の今昔(平成9年7月号〜10年3月号)」の続きとして、その中から「電鉄駅めぐり」の一部を掲載します。

具、機械、部品等が整然と並べられていました。東青山駅

昭和五十五年九月につくられました。その頃、この地域も住宅化が進み、大型店ジャスコや商店街が多くでき、商店や住民の要請でこの駅ができたということでした。寺地駅

昭和四十二年十月にできました。北越戊辰戦争の時、新潟から落ちて来た幕府方の兵が、この地の大仙坊ヶ原(だいせんぼうがはら)で官軍と戦った古戦場といわれています。

また、親鸞上人の波切りの御名号が寺地の鈴木家に残されて、上人の御旧跡の一つとして祀られています。焼酎駅

山田地区は昔から「焼酎」とも呼ばれていました。それは、鳥屋野に居られた親鸞上人が赦免されて都へ帰られる時、焼いた鮎を泳がせたという奇跡からその名がついたといわれています。山田の田代家に焼いた鮎の写っている木の盤が親鸞上人の御旧跡として残っています。越後大野駅

電鉄開業時からの駅ですが、計画では、

大野の中央部、現在の黒崎中学校前駅のあたりにつくられることになっていたのですが、一部の町の人たちの反対で、大野新田町の一番はっしこの現在の場所につくられたということです。黒崎中学校前駅

黒崎中学校前駅

昭和五十七年一月にできました。昔、大野の鳥原新地から北西にあたる北場村の裏に、大きな「的場潟」という潟がありました。今は埋められて流通センターの一部となっていますが、その的場潟のあたりが、今から八百九十五年前の長治二年、源義家の弟、加茂次郎義綱に討たれた黒鳥兵衛詮任の最期の地といわれます。そして、兵衛の遺体を埋めた上に建てられた緒立八幡宮の境内から湧き水が出て、万病に効く緒立温泉として有名になり、大勢の湯治客で賑わいました。そのお湯が今も緒立の老人福祉センター「黒崎荘」に使われています。新大野駅

新大野駅

昭和九年六月につくられました。昭和八年四月に新潟電鉄が開業しましたが、越後大野駅が新田町のはずれにつくられたため、大野の上町内の人たちは、駅へ行くのに二十分以上も歩かなければならず、年寄や病人は大変でした。さっそく

と改名しました。七穂の由来については、明治二十二年、国の第一次町村合併の時、居宿、吉江、大倉、大倉新田、吉田新田、山王、山王新田の七つの村が合併して、全部が米の産地ということから稲の穂の「穂」をとって「七穂村」と付けられたということです。この駅は、穀倉地帯の中心にあり、米の出荷等に非常に便利でした。また、増加する電車の運転回数をさばく交換駅として重要な役割を果たしていました。吉江駅

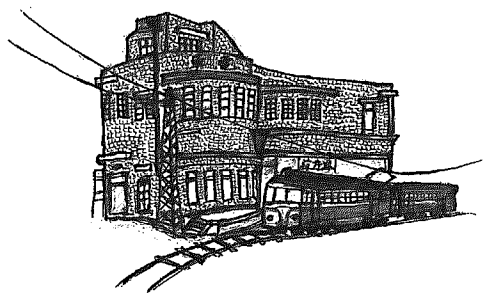
吉江には、昔、黒崎に木場城のあった慶長三年まで吉江城があり、越後上杉家の武將、吉江小四郎という人が守っていたと伝えられています。吉江には、西蒲、中蒲に柔道を広めた吉江高念寺の広川知恩師がおられます。大正四年大谷大学を卒業した知恩師は、翌五年、東本願寺の別院に入り、大正十五年吉江に帰りました。講道館柔道五段の師は、高念寺の本堂を道場にして、西蒲、中蒲の若者に柔道を教えました。檀家の人たちから本堂が壊れると苦情をいわれましたが、知恩師は若者に柔道を教えることをやめませんでした。知恩師の長男で、現住職の彰恩師もまた、父をもしのぐ柔道練達の士でした。昭和二十六年七月十五日、福島県会津若松市の公会堂で、新潟県、福島県の対抗柔道大会が開かれました。県代表として出場した彰恩師は、五段、六段の猛者を僅か二、三分ずつで破り、次いで六段の三將に副將、大将の三人、併せて七人をこぼろ抜きに破り、新潟軍は広川の上位

六人を残しての快勝でした。これには新潟・福島両県民がびっくりさせられ、今に語り伝えられています。吉江には、こんな哀しい歴史があります。明治五年、大津分水工事に反対する一揆(いっき)が三條に起こりました。数千人の暴徒が新潟県庁に向かって中ノ口川の堤防を下って来たのです。これを停めようと、板井村の庄屋萩野伝衛が、県の役人と一緒に吉江の観音堂のあたりで一揆を説諭したのですが、激高する暴徒たちに竹槍で突き殺されてしまったのです。伝衛は萩野左門の父親で、文武両道の達人でしたが、多勢に無勢、無念の最期をとげました。伝衛の最後の地となった観音堂は、今も吉江集落の上端に建っています。味方中学校前駅

この駅ができたのは、昭和二十八年四月一日です。それより六年程前、味方中学校が今の場所にできてから、村の人たちは中学校前に駅をつくって欲しいと請願を続けました。しかし、その願いはなかなか実現しませんでした。その後、地元の方々の熱心さと、電鉄の株主岡田幸平さんの力添えもあって、この駅ができたといわれます。この味方村はまた、おいしいやわはだねぎの産地として有名です。味方駅

味方駅

駅から南側に歩いて三分程の所に笹川邸があります。笹川氏は江戸時代初期の慶安二年から、明治維新までの九代にわたって、村上藩三条陣屋に属する黒鳥や板井、木場等、味方組八か村の大庄屋で



人々は誘致運動を起しました。電鉄の株主だった板井の岡田幸平さんの力添えもあって、開通から一年遅れた昭和九年六月十五日新大野駅ができました。興野と金巻の間にある公民館のあたりを昔から、仁平治っ原と呼んでいました。そこに、江戸時代、仁平治という大きな家がありました。或る年、中ノ口川が破壊した時、仁平治の家は小平方まで流され、今も小平方で残っています。波堤後今日まで、このあたりは仁平治っ原の俗称で語り継がれています。木場駅

構内の端に旧黒崎全村農協の大きな倉庫、駅前にはJA越後中央黒崎支店があります。木場は、大野を除くと黒崎の中でも昔から一番の大村で、昭和初期の頃には、三、四百戸の家がありました。

木場といえば、国会開設、自由民権運動に命をかけた大政治家山際七司先生出生の地として知られています。また、大正九年、新潟に「黒崎商会」をつくり、新潟―大野―白根間に初めて乗合自動車走らせた、山際佐之助という人も木場の出身です。木場には、今から約四百年前の慶長三年まで、越後上杉家の出城として木場城がありました。今、木場に伝わる郷土芸能の棒踊りは、その頃より伝えられたという説があり、今も木場の若者たちが、そして、地域の郷土芸能として木場小学校の子供たちも継承しているようです。板井駅

最初、堤防の上を電車が通るといふことで、当時堤防の上にあった新茶店など、三軒程の茶店が堤防の下に移転させられました。板井には萩野左門という衆議院議員、栃木県知事、新潟市長の要職を務めた政治家がいます。また、戦後、県会議長を務めた電鉄発起人の一人岡田幸平さんも板井の人です。また、釈迦(しゃか)堂遺跡という遺跡があり、文政年間に発掘された青銅の釈迦誕生佛立像が、奈良時代の佛像鑄造方法に類似するといわれ、外にも付近から多量の遺物が出土しています。なお、釈迦誕生佛立像は、板井広瀬喜左衛門家に保存されています。七穂駅

昭和十二年十一月「越後山王駅」としてつくられました。その後、この地方に山王という地名が多くまざらわしいということから、昭和十五年十月「七穂駅」